

当院で診療をお受けになる皆様

消化器糖尿病内科
副院長 堀川 洋平

当科では、患者さんの診療データを用いて、今後の診療の発展につながる多くの研究（臨床研究）を行っています。今後、以下の研究につき、秋田大学消化器内科と共同で取り組みますのでご連絡申し上げます。

特殊な検査や治療は行わず、通常診療から得られた身体情報、検査、および治療データを用いて検討を行います。個人が特定されるような情報は含まずに行い、個人への不利益並びに危険性は一切ありませんのでご安心ください。

しかし、研究にご賛同頂けない場合には、担当医師までご連絡ください。また、一旦同意されても、いつでも取り消すことができます。その場合にも、担当医師までご連絡ください。既に匿名化されている場合や、論文として発表された場合には、情報を破棄できないこともありますのでご了承ください。

記

1. 研究課題

バレット食道の長さとう発癌リスクに関する多施設後ろ向き研究

2. 担当者

消化器糖尿病内科医師、秋田大学 飯島克則

3. 対象

2014年1月～12月の1年間に検診目的で内視鏡検査を受け、その後、少なくとも1回の内視鏡検査を受けたすべての症例、約8000人の診療データ

4. 概要

バレット食道は、食道腺癌の主要な発生源地で、その発がん率にバレット食道の長さが関連していると、欧米を中心に多数報告されています。そこで、バレット食道の長さとう発癌リスクとの関連を明らかにするために本検討を行います。

5. 医学倫理的配慮

1) 対象とする個人の人権擁護

ヘルシンキ宣言の順守および「人を対象とする医学研究に関する倫理方針」に従う。

2) 対象となる者に理解を求め同意を得る方法

本研究は、過去の通常診療で得られた情報を使用する後向き臨床研究であるため、あらかじめ情報を通知・公開し研究対象者等が拒否できる機会を保障する方法（本書式；オプトアウト）を行う。

3) 行う事によって生ずる個人への不利益並びに危険性と医学上の貢献の予測

個人への不利益はありません。